

# 玉葱の栽培

ナカハラのたね

## 1) 上手に栽培するために

適期より早まきすると大苗になり、抽苔・分球の原因となります。反対に遅まきは小苗となり、越冬率が低下し収穫減の要因となりますので、品種や天候に見合った適期に播種することが大切です。また多肥・遅肥は、球の貯蔵性低下や腐敗などの原因となりますので注意しましょう。

## 2) 苗作り

- 苗床は、日当たりがよく管理しやすい場所で、無病虫で有機質豊富な保水性・排水性・通気性の優れた土を選び( $\text{pH} 6.0 \sim 7.0$ )ます。肥料は速効性を中心に $10\text{a}$ 当たり $6\text{kg}$ を目安とします。
- 一定間隔に播くことができる、シーダーテープを利用することにより、揃った苗が期待できます。(60~70粒/ $1\text{m}$ 当たり)
- 苗床に、条間8~10cmで深さ5mmほどのまき溝に条まきします。その後、切りわらなどをかけて、発芽までは寒冷紗で覆います。
- 播種~発芽までは、苗床が乾かないよう十分な灌水が必要です。その後はむやみな灌水は控え、硬くしまった苗作りを心掛けましょう。
- 生育に応じて間引を行い、本葉1~2枚頃に株間2~3cmとします。その際に追肥・中耕(根に酸素を与え雑草を防ぐ)および土入れ(倒状を防ぐ)・除草を併せて行います。

## 3) 苗の植付け

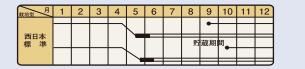
- 定植の1ヶ月程前に堆肥と苦土石灰を施して粗く起した後、元肥を全層に施し畝(幅90~120cm・高さ20~25cm)を作ります。
- 苗は、育苗日数55日前後の草丈20~25cm、茎の太さ直径4mm前後のものが良いでしょう。
- 条間20~25cm、株間10~12cm、深さ2cmほどに浅く植付け、十分に灌水します。

## スーパーこがね

3月上~中旬どりの甲高豊円球、市場へ一番乗り!!

●温暖地では3月上~中旬から収穫できる超極早生種。●球は甲高豊円球で球重250g内外で良く揃う。●長葉で首がしまり、葉タマネギ、青切出荷に好適、抽苔・分球の発生も少なく作り易い。●超極早生としては耐寒性があり、暖地はもとより中間地の沿岸部でも栽培されている。●玉締まり良く、しつかりした肉質で甘みが強く食味にすぐれる。

栽培期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
西日本標準	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



## 博多こがねEX

注目!!



栽培期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
西日本標準	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## たまねぎ

発芽適温: 18~25°C	10a当たり播種量(約300坪)	20ml当たり粒数
裸種子	4~6dL	2,000~3,000



タマネギのもつ独特の刺激臭「硫化アリル」には、多大な効果が凝縮。ビタミンB1の吸収を助け食欲を増進させ新陳代謝を活発にし、さらに心臓病や脳卒中の予防、血液の浄化血糖値を下げ血栓予防に効果を発揮します。また中性脂肪や悪玉コレステロールを減らす働きもあります。

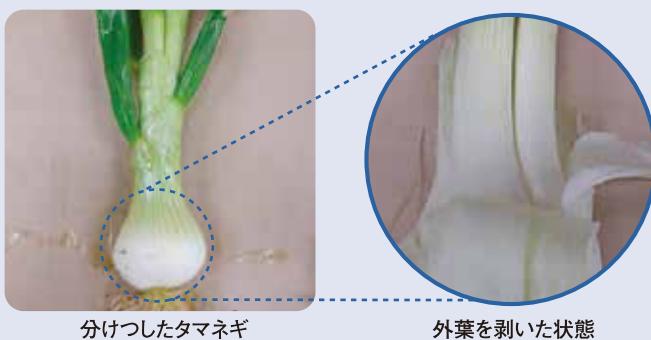
# タマネギ栽培の要点

ナカハラのたね

## ①タマネギの性質

一般的にタマネギは、球の肥大が完了した頃から葉が倒伏して枯れ始め、休眠に入る。品種によって休眠期間に差はあるが、休眠から覚醒した後に再萌芽し、翌年の春に抽苔する。条件によって1年目に抽苔することがあるが、これは早期抽苔であり収穫量に大きく影響するので、タマネギ栽培において最も留意すべき点と言える。

また、主に早生系品種において、栄養成長の初期～中期の段階で生育が極端に進みすぎると、早期分けつを起こすことがある。この場合、球肥大が進むにつれて分球状態となり、商品価値が著しく低下する。



## ②抽苔(トウ立ち)

タマネギは一般に、茎の直径が1cm以上になった苗が0～5℃の低温に1ヶ月以上遭うと、抽苔の原因である花芽を形成し、その後の高温・長日条件で抽苔する。とくに中・晚生品種の早まきや大苗定植などの要因によって、早期抽苔を引き起こしてしまうことがある。近年多く報告されている事例は、年内の温度が平年より高く、年内に生育が進み過ぎてしまい、意図せずに早まきや大苗定植と同じ条件になって抽苔に至るケースである。定植前に大苗となってしまった場合の対処法として、苗の上部を1/2ほどカットすることで、早期抽苔の危険性を軽減できる。また、肥料切れや極端な乾燥などの劣悪な生育環境も抽苔の要因となり得る。

早生系の品種が茎の直径が1cm以上で低温に遭っても抽苔しないのは、高温・長日条件となる前に球肥大が完了し、倒伏・休眠に入るからであり、早生系品種が早期抽苔した場合は別の要因によるものと考えられる。

## ③施肥

タマネギは生育ステージによって必要とする肥料成分が異なり、その時期に必要な成分が不足すると生育が遅れたり、球肥大に悪影響を及ぼすことがある。最悪の場合、抽苔を引き起こす原因ともなるので、とくに注意が必要である。

窒素成分は全てのステージで必要だが、とくに幼苗期から球肥大初期の間は欠かすことができない。しかし、窒素過多は葉が濃緑になり生育を抑制することがあるだけでなく、球肥大中期以降にまで肥効が続くと球締りが悪く、腐敗や貯蔵性の低下につながる。

リン酸成分は、とくに幼苗期に多く必要とする。定植後もやや多い状態を保つことで生育を旺盛にできるが、幼苗期に不足させていると、本園にリン酸成分が充分にあっても肥効はわずかである。

カリ成分は、栄養成長の段階ではほとんど生育に影響しないが、球肥大には絶対的に必要な成分であり、不足すると小球にしかならない。また、カリ不足は病に対する耐性や収穫後の貯蔵性が低下する。

これらのことから、タマネギ栽培においては育苗期から本園の元肥及び、栄養生育期の間は窒素・リン酸成分を多めに施し、カリ成分は結球の直前に追肥するのが効果的といえる。

西日本の平坦地を例にとると、早生系品種は12月末にカリ成分を多めに含んだ最終追肥(止め肥)を施し、晩生系は2月末に施肥するのが適当である。

## ④収穫と貯蔵

貯蔵性は球内の肥料要素含有量で大きく左右され、窒素・リン酸分が多くカリ分が少ない球は腐敗が早くなる。とりわけ、窒素含有量が多いと萌芽も早くなる傾向がある。

収穫時期は、圃場全体の8割程度が倒伏した頃が適期であり、この時期に収穫すると収量と貯蔵性の両方を得られる。収穫後は1～2日程度圃場に置いて天日乾燥させることにより、腐敗球を減少させることができる。それ以上放置すると逆効果になることがあるので、圃場では長く乾燥させない。

また、収穫遅れや圃場の水分過多も貯蔵性低下の要因となるので、適湿を保った上で品種ごとの収穫適期を見誤らないことが良品を長く貯蔵することにつながる。

## タマネギ栽培 Q&A

### Q1 タマネギがトウ立ちするのはなぜ?

茎の太さが1cm以上で寒さに当たると、春にトウ立ちしやすくなる。

肥料切れや、極端な乾燥でもトウ立ちすることがある。

対策 とくに中生・晚生の品種は、早まきや大苗定植しない!!

### Q2 肥料はいつ、どんな成分を施せばいいの?

元肥や生育中期までの追肥には窒素(N)とリン酸(P)成分を主に施し、球肥大が始まる頃にカリ(K)成分を多めに含んだ肥料を最終追肥(止め肥)として施す。

### Q3 貯蔵が上手くいかない

窒素肥料の遅効性や、圃場の水分過多、収穫遅れは腐敗の原因となる。

対策 最終追肥(止め肥)の時期と収穫適期を守り、半日～1日の天日乾燥を行なう。

# チャレンジしよう 玉葱のセット栽培

## 1 『セット栽培』とは…

春先に種をまき、梅雨入り前までに肥大した小球（セット球）を一度掘上げて貯蔵し、初秋に定植することにより、真冬に出荷できるサラダ用玉葱の栽培技術です。通常の玉葱栽培は9月から播種を行ない、翌年の3月～6月に収穫されます。夏まではサラダ用玉葱（新玉ネギ）の出荷量も多いのですが、秋から年末になると吊り球貯蔵した煮食用の玉葱が多くなるので、この時期にサラダ用玉葱を出荷することができれば注目されることでしょう!!

## 2 適地

暖地～中間地に適しています。但し中間地になると育苗時のトンネルやハウス栽培を必要とします。また冬の訪れが早い地域では12月から被覆資材で保温が必要です。

## 3 品種

セット栽培に適した品種を選ぶことが重要です。超極早生タイプの『博多こがね』や『博多こがね EX』は、従来の栽培方法では夏の早い時期（8月末）に播種を行ない、翌年の早い時期（3月中旬）に収穫を行なう品種でしたが、ここにきてセット栽培用の品種として注目を浴びています。

## 4 栽培

### 土づくり

よいセット球を作るには先ずは良好な土作りが必要です。堆肥などを投入し肥沃で排水の良い苗床づくりを行ないます。また春の育苗期間は気温が上昇しがちで、肥料を入れすぎると徒長して葉が倒れやすくなり、セット球の充実が不足するので注意します。

### 播種

播種は3月中～下旬に行ないます。畦幅130cmほどの苗床に、条間8cm、株間1cmに条播きし、その後充分に灌水を行ない、以後は乾燥させすぎない程度に注意して水管理します。本葉1枚目が伸びたころ、厚播きになった所は間引きします。

### 育苗

5月中～下旬になると葉が倒伏くるので、セット球を掘り上げます。その後2～3日地干して30～40球ずつ束ね、夏場は風通しのよい場所で貯蔵します。セット球の大きさは直径1.5～2cmが良いでしょう。あまり大きすぎると分球が増え、また小さすぎると歩留まりが落ちて収量を確保できません。

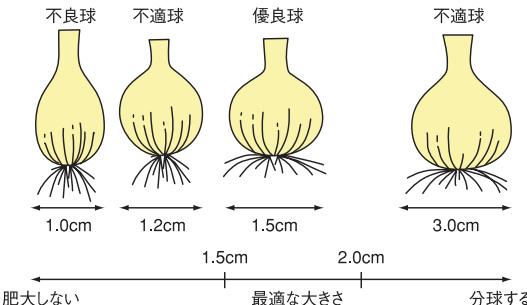


**博多こがね玉葱  
(超極早生)**

生育旺盛な耐病性にすぐれた腰高種!!

### 定植

セット球の植付けは8月下旬に行ないます。定植が早すぎると葉枚数が少ないうちに結球を開始してしまい、小玉で終わりやすくなります。逆に定植が遅れると結球するのに必要な日長・温度が足りず球肥大が悪くなりますので定植は適期に行ないましょう。



本圃は低温期の球肥大を促進するために、マルチ栽培が良いでしょう。条間20～25cm・株間10cmの4条栽培とします。深さはセット球の首が見えるくらいの浅植えのほうが萌芽も良く揃います。

### 水管理

残暑の厳しい時期にマルチ栽培を行なうので、速やかに発根させる工夫をします。整地の際は充分に水分を含んだ状態で畦立てを行ない、マルチかけします。乾燥しやすい時期なので、チューブなどで灌水し、適湿状態にしてから整地するとよいでしょう。定植後もマルチの中が乾かないように灌水を行ないます。また地温が高すぎると萌芽が遅れたり不揃いになってしまいます。9月初旬になっても暑さが厳しい場合は、寒冷紗のトンネルで遮光をするとよいでしょう。

## 5 収穫

収穫は11月下旬～2月にかけて肥大したものから2～3回に分けて行ないます。この時点での大きさは200g程度になります。葉が傷まないうちに葉付き玉葱で出荷すれば、より新鮮さをアピールできます。

## 6 ポイント

年内に収穫するためには、10月上旬に葉が6～7枚程度確保できたら、10月中旬には肥大を開始します。乾燥し過ぎると小玉に終わってしまうので雨水が入る程度にマルチに穴をあけると良いでしょう。また寒い地域では霜よけトンネル保温し、肥大を促進させると良いでしょう。

栽培型	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
暖地												
↓ 中間地	● 播種		セト球育苗		小屋吊り		×	本圃での栽培	葉付き玉葱で収穫			
			■ 掘り上げ				× 定植					○ 収穫時期

\* 中間地での育苗期間はトンネルやハウス栽培を必要とします。

\* 冬の訪れが早い地域では12月から被覆資材で保温が必要です。



**博多こがねEX玉葱  
(超極早生)**

葉タマネギ・青切出荷に最適な甲高豊円球!!